

一人一人のニーズに応じた自立活動の実践について

～自閉症・情緒障害特別支援学級における実践～



1. 研究主題 一人一人のニーズに応じた自立活動について

2. 主題設定の理由

特別支援学級に在籍する児童には、それぞれが抱える障害のため、日常生活や学校生活において、つまずきや困難が生じる。そのため、障害に対して主体的に向き合い、困難を改善、克服する「自立活動」の指導は必須である。また、すべての学習を下支えする学習の土台としての役割を自立活動は担うことになる。

しかし、児童の障害は一人一人異なる。また、通常の教科とは違い教科書がない中、単元を開発したり、教材や教具を用意したりする難しさもある。

本校の児童は、元気に学校で学習している児童がほとんどである。支援学級内では、友達や先生と楽しく過ごしていることが多い。一方、気持ちが安定しない、他者とのかわりが苦手、手先が不器用などさまざまな課題がある。そのため、教師は児童をよく観察し、児童の特性に応じた自立活動を実践することが大切である。いかに児童のニーズに応じた自立活動を実践することができるか。そして、困難を改善・克服することができるかについて、実践を通して研究していこうと考えた。

3. 研究の目標

- (1) 自立活動について理解し、実践力を高める。
- (2) 各教科の中に自立活動を取り入れ、児童の力を高める。

4. 研究の内容

- (1) 自立活動への理解を深め、実践できる内容を精選する。
- (2) 各教科に自立活動を取り入れた実践をする。

5. 研究の実際

- (1) 自立活動について理解し、実践力を高める。

①自立活動の目標

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 第7章自立活動 第1目標 より

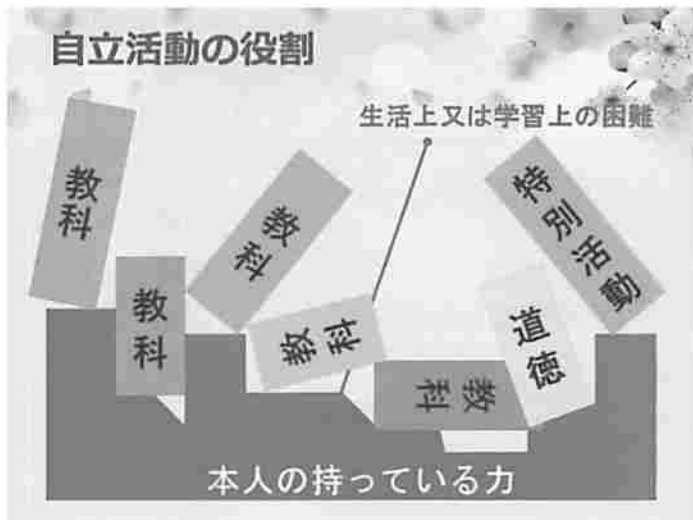
個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達を基盤を培う。

② 6つの区分と27の項目

<p>1 健康の保持</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事 (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事 (3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事 (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事 (5) 健康状態の維持・改善に関する事 	<p>2 心理的な安定</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 情緒の安定に関する事 (2) 状況の理解と変化への対応に関する事 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事
<p>3 人間関係の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 他者とのかかわりの基礎に関する事 (2) 他者の意図や感情の理解に関する事 (3) 自己の理解と行動の調整に関する事 (4) 集団への参加の基礎に関する事 	<p>4 環境の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 保有する感覚の活用に関する事 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事 (5) 認知や行動の手がかりとなる概念の獲得に関する事
<p>5 身体の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事 (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事 (4) 身体の移動能力に関する事 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事 	<p>6 コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事 (2) 言語の受容と表出に関する事 (3) 言語の形成と活用に関する事 (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

千葉県ホームページ 自立活動リーフレットより

③ 自立活動の役割



図A



図B

ブログ Mr.YAJIC の特別支援教育より一部引

児童は、学習・生活の基盤が土台となることで、教科や領域の力を伸ばすことができる。しかし、特別支援学級の児童は、図Aのように障害により学習や生活の基盤がしっかりしていない、またはバランスが悪い。そのため教科等で学習しても思うように力が伸びないことが目立つ。そこで、図Bのように本人の不足している力を補うことが自立活動の役割と言える。

(2) 自立活動の主な実践

各教科の中に自立活動を取り入れ、児童の力を高める。

区 分	実 践	教科との関連	資料編
1 健康の保持	①コロナ予防をしよう ②遅刻をなくすには	体育 体育	
2 心理的な安定	①元気に登校するために ②忘れ物をしないようにするには ③もっとすてきな自分になろう ④SOSを出そう ⑤自信をつけて交流学級へ行こう ⑥できるようになりたいことにチャレンジしよう	理科 体育	3 4
3 人間関係の形成	①自己理解を深め、修正しよう ②たくさんの人と交流をしよう ③お祭りを開こう	国語 算数・図工	
4 環境の把握	①ビー玉キャッチゲーム		
5 身体の動き	①髪の毛を一人で結べるようになるぞ ②ひもぐつをはけるようになるぞ (～ちょうむすびに挑戦～) ③ネクタイを結べるようになるぞ (「わすれられないおくりもの」より) ④あやとりに挑戦 ⑤コンパスを使ってコマづくり	国語 算数・図工	
6 コミュニケーション	①手遊び歌をしよう ②わたしはだれでしょう ③伝言ゲーム ④心に残ったことについてスピーチをしよう ⑤オンラインでクイズ大会をしよう ⑥二人でUFO キャッチャー	音楽 国語 国語 国語 国語	1 2

2-①のようす



6. 成果と課題

(1) 成果

- ・ 自立活動の理解を深めたことにより、実践する学習の系統性がわかった。
- ・ 実践できそうな学習をイメージしやすくなった。
- ・ 教科と関連させて自立活動を行うことにより、短い時間で様々な学習につなげていくことができた。
- ・ 児童は、自己について見直し、考える時間とすることができた。
- ・ 児童は、できることが増え、自信をつけていく場面が見られた。
- ・ 取り組みの成果として、長欠傾向の児童の欠席日数が減った。

(2) 課題

- ・ より継続的、系統的な学習とするためには、児童の実態を丁寧に見ていくことが必要である。
- ・ さらに個に応じた学習と児童の力を高めるための自立活動は、どんな学習があるのか教材研究の必要がある。

資料編

一人一人のニーズに応じた自立活動の実践について

目次

- 1 わたしはだれでしょう(コミュニケーション)1
- 2 伝言ゲーム(コミュニケーション)3
- 3 もっとすてきな自分になろう(人間関係の形成).....5
- 4 できるようになりたいことにチャレンジしよう(心理的な安定).....6

10月13日(水)1校時 支援ルーム3組自立活動学習指導案 指導者 西浦 真彦

1 研究テーマ

○個に応じた自立活動のあり方

2 単元名

わたしはだれでしょう(コミュニケーション)

3 研究テーマとのかかわり

本学級の児童には、自閉傾向にある児童が複数おり、コミュニケーションをとることがを苦手としている児童が多い。支援ルームでの学習の中で、設定や場面を変えながら、友達とコミュニケーションをとる体験をたくさんさせることで、コミュニケーション能力を向上させ、交流学級の中でも友達とのコミュニケーションが少しずつ円滑にできるようになるだろう。

○友達の考えの助けになるヒントを考え、伝える。

「わたしはだれでしょう」(ゲームの方法の詳細は裏面参照)は、果物や野菜、料理の絵カードを1枚引き、自分はその絵カードの答えになりきってヒントを出しながら友達に正解を考えてもらうゲームである。絵カードを引いた後、答えのヒントになりそうなことを考え、ワークシートに記入させる。ここでは、友達はどのように考えるかということ考える想像力が必要となる。ま

5 本時の指導

児童の活動	支援や指導の内容
<p>1. おちゃらか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間で区切りながらローテーションをして行う。 <p>2. わたしはだれでしょう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつ答えとなるカードを選ぶ。 ・答えのヒントを3つ考える。(メモ) ・自分の順番になったら出題する。 ・回答者として考える。質問をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな友達と取り組めるようにする。 <p>○以下の点を理解させてから行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答者の助けになるヒントにする。 ・相手に聞き取りやすい声で話す。 ・答えに迫る質問とする。

た、異学年で行う時には、下学年の友達にもわかるヒントになっているだろうかなど、相手や状況を考えなければならない。このことよって、「相手はどう考えるだろう」ということを念頭に置きながらコミュニケーションをとることがおのずとできるようになるであろうと考える。

○答えに迫る質問を考え、伝える。

友達が出すヒントでは、正解できないことがある。そのようなときは、質問タイムを設け、出題者に質問をしてよいことにする。的確な質問は何かを考えながらゲームを行うことで、相手に尋ねる力が備わるようになるだろうと考える。

4 本時の目標

- A(6年生):多くの視点からヒントを出したり質問したりできる。
- B(6年生):複数の視点からヒントを出したり質問したりできる。
- C(6年生):ルールを理解し、状況に応じたヒントの出し方や質問をすることができ。
- D(3年生):ルールを理解し、ゲームを楽しむことができる。

<p>3. ちょうむすびに挑戦</p> <p>・手順を理解し挑戦する。</p>	<p>・場をたくさん作る。</p> <p>・できた児童は、先生役となる。</p>
---	--

わたしはだれでしょう

- ① 一人一枚、野菜や果物、料理などが描かれている絵カードを選ぶ。
他の友達には見せない。
例)バナナ
- ② 自分が選んだカードは何かを他の友達に当ててもらおう。
その際のヒントとなることを3つ考えてワークシートに記入する。
例 黄色 ・ さるが好き ・皮をむいて食べる
- ③ 出題者はヒントを出す。回答者はわかったら手を挙げて答えを言う。
- ④ 3つのヒントを出しても正解が出なかったら回答者から出題者への質問タイムとする。
例「種は入っていますか?」「コンビニで売っていますか?」
- ⑤ 正解が出たら、または制限時間になったら終了し、次の出題者へ交替する。

資料2

12月13日(月)5校時 支援ルーム3組自立活動学習指導案 指導者 西浦 真彦

1 研究テーマ

○個に応じた自立活動のあり方

2 単元名

伝言ゲーム(コミュニケーション)

3 研究テーマとのかかわり

本学級の児童には、自閉傾向にある児童が複数おり、コミュニケーションをとることを苦手としている児童が多い。支援ルームでの学習の中で、設定や場面を変えながら、友達とコミュニケーションをとる体験をたくさんさせることで、コミュニケーション能力を向上させ、交流学級の中でも友達とのコミュニケーションが少しずつ円滑にできるようになるだろう。

今回の「伝言ゲーム」は、担任からかかってきた電話(教室のインターホン)に出て、話を聞き、その内容を学級の友達に伝えるゲームである。

学習の要点は以下の3点である。

- ① どのようにして先生の話の聞けばよいか。
- ② 先生からの指示をどのように友達に伝えればよいか。
- ③ 先生からの指示を伝える友達の話をどのように聞けばよいか。

5 本時の指導

児童の活動	支援や指導内容
<p>1. 15夜さんのおもちつき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間で区切りながらローテーションをして行う。 <p>2. 伝言ゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生からの電話を受け取り、指示を聞く。 ・先生からの指示を友達に伝える。 ・先生からの指示を友達から聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・男女や異年齢の友達とも取り組みようにする。 ・児童は指示が理解できるように、教師は児童の実態に合わせて指示を出す。 ・「だれが」、「なにをするのか」がわかるように伝えることを意識できるようにする。 ・自分が、どうすればよいかを注意深く聞くことができるようにする。

電話での指示は、視覚の情報がないため正しく理解することが難しい。相手をお願いして、よく聞き取れるようにゆっくり話してもらったり、繰り返してもらったりするとよい場合がある。また、必要に応じてメモをとることも大切である。

先生の指示を友達に伝えるときは、だれが、なにをすればよいかを明確にしなければならない。

ゲームを行いながら、うまくいかないときは話し合い、どうすれば正しく聞き取り、伝えることができるのか考えさせ、日々の実践に生かせるようにさせたい。

○先生からの指示を聞き、友達に伝える。

自分は、何をすればいいのか、話の要点を捉え、聞く態度を身に付けさせる。

4 本時の目標

- D(6年生):正確な伝達が行えるように、状況に応じた工夫ができる。
- B(6年生):相手に協力を求めながら、正しく情報を受け取り、友達に伝えることができる。
- C(6年生):相手に協力を求めながら、正しく情報を受け取り、友達に伝えることができる。
- A(3年生):話を最後まで聞き、自分はどうすればよいかを判断することができる。

友だちに正しく伝えるにはどうしたらよいだろうか。

5分

1. 趣旨を伝える

- (1) インターホンに出る
- (2) 先生の話聞く
- (3) みんなに伝える

↑

← 板書しておく

15分

2. まずはやってみる ※やや難しいお題を出す

インターホンの出方の練習

・支援3組の〇〇です(みんな)

- ① 「少し遅れるからみんなに伝えてもらえる？」
- ② Aさん…国語の教科書のモチモチの木1を音読
Bさん…国語ドリルの漢字を進める
Cさん…計算スキル42
Dさん…計算スキル43

伝達内容をホワイトボードに書いておく。

③ 「Dさん、どうだった?」、「なにが難しかった?」

発: どうすればみんなに正しく伝えられるだろう。

④ 考える

・メモを取る ・繰り返す ・もう一度お願いします。

どうすればよいだろう?
←

3. もう一度やってみる(Dさん) 5分

どうだった?

聞く人はどうすればよいか

・同様

4. 各児童、挑戦 15分

5. わかったことを発表する 5分

7月1日(金)1校時 支援ルーム3組(自閉・情緒学級) 自立活動学習指導案 指導者 西浦 真彦

1 研究テーマ

○個に応じた自立活動の実践

2 単元名

もっとすてきな自分になろう(自己理解)

3 研究テーマとのかかわり

本学級は自閉症・情緒障害特別支援学級であることから、児童の特性による様々な課題が見られる。特に集中力が持続しなかったり、思い通りにならないとイライラしたり、すぐ不安になったり、整理整頓が苦手であったりなどが多く見られる。そこで、本単元を設定し、学習を通して、そのような自分を知り、どうすればよりよくできるのかを考えさせ実践につなげる機会としていく。

○自分シートを作る。

特に、特別支援学級の児童は、自分自身についての理解に乏しい。そこで、まずは、自分シートを作る活動を通して、自分の長所と短所を整理できるようにさせたい。自由に記述することは困難であるので、長所や短所は教師が作成した表現から選択できるようにする。

シートが完成したら、最初に自分の長所に目を向けさせ、さらに伸ばす方法を考えさせる。ここでは、教師や友達のを借りて、長所を伸ばす方法についてより具体的に考えさせていく。

5 本時の指導

児童の活動	支援や指導
1.自分の短所を克服する目標を持つ ・このようになりたいという思いを大切に作る。 2. 目標を達成するための具体的な方法を見つける ・自分で考える。 ・友達と考える。 ・先生と考える。 3.自分の目標と方法を友達に発表する。	・自分と向き合い、よりよい自分になりたいという思いをもてるように支援をする。 ・担任は、具体的な方法を複数用意する。児童は、自分ができそうなものを選んだり、組み合わせたりして自分に合った方法を見つける。 ・どのようなときに、どうするかを言えばいいことを確認してから、発表できるようにする。

次に、短所に目を向ける。短所と向き合うことは、特に神経質などところがある児童には苦痛が伴う。しかし、短所にも目をそらさずに向き合い、自分なりに努力して克服していこうとする態度を養うことは、自立した社会人となる上で大変重要なことであると考えている。

○自分なりのめあてをもつ。

本学級の児童は、イライラしやすい児童、不安なことがあると学校を休みたくなってしまいう児童、注意散漫で整理整頓が苦手な児童などがいる。第一に、めざす自分像を思い描くことから始める。イライラしても声を出さない、不安で欠席はしない。筆箱の中身だけはいつも整頓されているなど、明確な目標を持たせる。そして、その目標はどうしたら実現できるのかを探っていく。教師はいくつかの手立てを示し、児童は実践できそうなものを選択できるようにする。

これまで漠然としていた、自分の短所について明確な目標と手立てを持つことで、何をどのように努力すればよいかのかがわかり、取り組みやすい実践になるだろうと考えている。

4 本時の目標

自分の短所を克服する目標を立て、実現するための方法を考えることができる。

1 研究テーマ

○個に応じた自立活動のあり方

2 単元名

できるようになりたいことにチャレンジしよう

3 研究テーマとのかかわり

特別支援学級の児童は、学習や運動などにおいて、「できない」、「うまくいかない」ことがあると、自己肯定感が低くなる傾向にある。そのため、「どうせできない」とすぐに諦めたり、「自分はなんてだめなんだ」と落ち込んだりしているのをよく目にする。

彼らがうまくいかないのは、①力が不足していること、②粘り強く努力する経験が不足していること、③できるようになるための計画を立てられないことが、主な原因だと考えられる。

今回の学習を行う上で、各児童に、「今はできないけど、できるようになりたいこと」について尋ねた。すると、現在、体育の学習で縄跳び運動をしていることもあってか、「○○跳びができるようになりたい」と答える児童が多かった。縄跳び運動は、成果もわかりやすい。そこで、今回は体育の縄跳び運動の学習と関連させて本単元を構成することとした。

本単元では②を重視する。粘り強く努力を重ねることで、できなかったことができるようになることを実感させ、「自分だって、がんばればできるんだ」という経験をさせたい。

しかし、③の能力が低いと、やみくもに取り組むことが予想される。児童と話し合い、どのように取り組んでいけば目標を達成できるかについて話し合い、計画的に取り組めるようにしていく。

また、タブレットを使って、自分ができるようになりたいこと、そのための計画や取り組み、成果等をスライドにまとめ、自分の活動の足跡として残しつつ、単元の最後に発表させることで、自分の努力や成果をよりはっきりと認識できるようにする。また、友達や教師に認められる機会を作っていく。

4 本時の目標

A(5年):あやとび10回、二重跳び1回跳べる。

自分の努力と成果を発表し、自信を持つことができる。

B(5年):あやとびと交差跳び10回、二重跳び1回跳べる。自分の努力と成果を発表し自信を持つことができる。

C(4年):はやぶさ跳びが5回跳べる。自分の努力と成果を発表し自信を持つことができる。

D(3年):二重跳び10回・はやぶさ跳び5回跳べる。自分の努力と成果を発表し自信を持つことができる。

E(3年):前回し跳びが20回、あやとびが5回跳べる。自分の努力と成果を発表し自信を持つことができる。

5 本時の指導

児童の活動	指導、支援事項
1. 本時の学習活動について知る 2. 自分の取り組みについて発表する。 ・何ができるようになりたいのか。 ・どのような取り組みをしてきたのか。 3. 成果を発表する(外) ・一人ずつ発表する。 ・自分の目標を言ってから発表する。	○発表することを整理して発表しやすくする。 ・○跳びを□回跳べるようになりたい。 ・どこで、どのように取り組んできたかを言えるようにする。 など

<p>4.感想を発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返っての感想をワークシートに記入する。 ・記入したことをもとに、全体に発表する。 ・互いへの感想を発表したり、意見を発表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○互いの努力に対して認め合えるようにする。 ○今後の目標についても考えることができるようにする。
---	---

振り返りシート

学習者氏名	振り返りシート
<p>1. 学習の振り返り</p> <p>2. 学習の振り返り</p> <p>3. 学習の振り返り</p> <p>4. 学習の振り返り</p> <p>5. 学習の振り返り</p> <p>6. 学習の振り返り</p> <p>7. 学習の振り返り</p> <p>8. 学習の振り返り</p> <p>9. 学習の振り返り</p> <p>10. 学習の振り返り</p>	<p>1. 学習の振り返り</p> <p>2. 学習の振り返り</p> <p>3. 学習の振り返り</p> <p>4. 学習の振り返り</p> <p>5. 学習の振り返り</p> <p>6. 学習の振り返り</p> <p>7. 学習の振り返り</p> <p>8. 学習の振り返り</p> <p>9. 学習の振り返り</p> <p>10. 学習の振り返り</p>